

2016
1113
No.
29



すずしん

新発想で
つこう。
豊かな
人口減少社会

「体に合った服を作る」人口減少対策を

「体と服の関係」に例えると人口減少問題はわかりやすい

私は最近、人口減少問題を体（人口）と服（社会の仕組み）の関係に例えて考えることをお勧めしています。これまでの日本社会は、言わば、若く成長期にあり、その体は毎年大きくなっていきました。そのため、服も合わせて大きく、そして経済的な余裕から立派なものに作り変えてきました。しかし、日本は今や壮年期に入ったため体の成長は止まり、そして小さくなり始めました。つまり、このままでは現在の服は大き過ぎて合わなくなる可能性が出

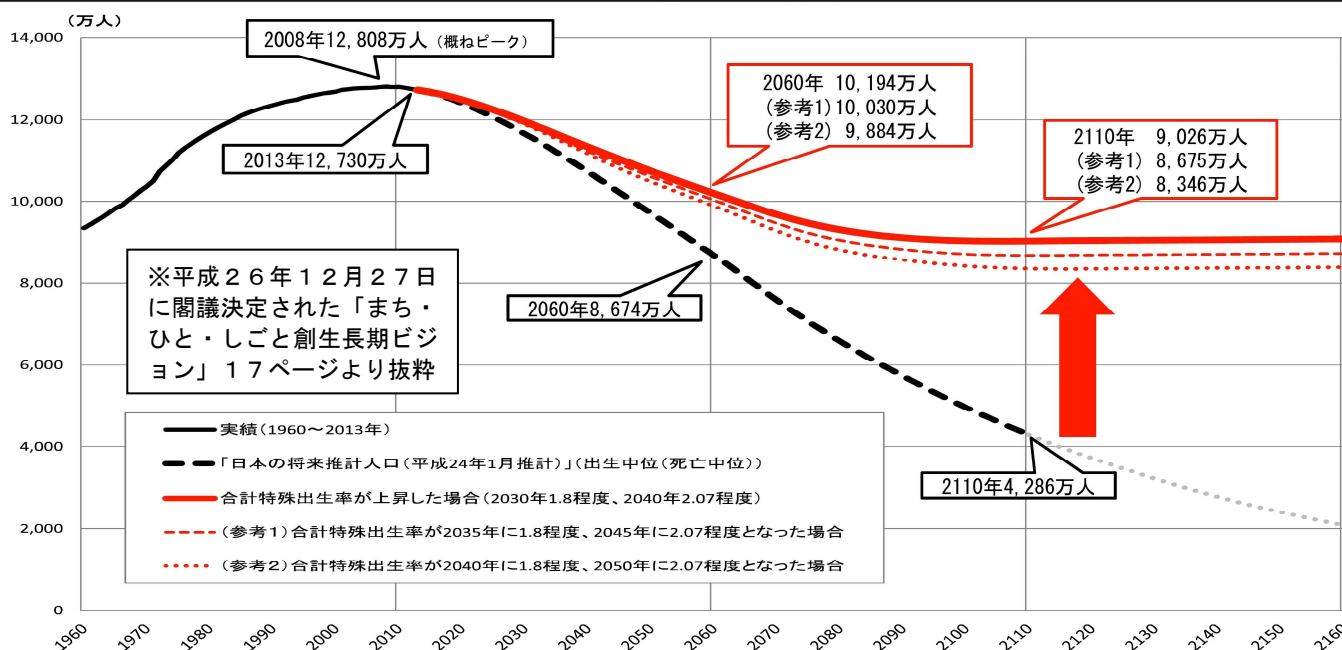
てきました。ところが「折角作ったお気に入りの服なのに着られなくなるのは嫌だ。どうしよう…」と慌てている、これが現在の日本の姿だと考えます。

これまでに大きく成長した体が健康なものであれば、その体型は何とかして維持しなければなりません。しかし、1億3千万人近いという人口規模や現在の都市・街づくり、そして日本の社会そのものは果たして健康なのでしょうか。

地元静岡から東京に向かう新幹線で都内に入ると、家やビルが所狭しと建てられた街並みが線路の

図1. 我が国の人口の推移と長期的な見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。



両脇に広がります。それを見るたびに、日本の人口は多過ぎるように感じるのは私だけでしょうか。また、日本はかつて世界2位の経済大国になる程にまで経済発展したにもかかわらず、最近こそ減少傾向にはあるものの毎年2万～3万人の方が自死しています。**自信や夢を持って生きることが決して簡単ではない国が果たして「健康」だと言えるのでしょうか。むしろ日本社会は「(やや) 太り過ぎの不健康な体」と言うべきではないでしょうか。**

世界に目を転じれば、人口はむしろ増加の一途であり、経済格差や環境破壊、食料や水の不足、地球温暖化等の問題が進行しています。つまり、人口が増え続けなければ維持できないという今の社会や経済の仕組みを変えない限り、人類や地球は極めて深刻な危機に直面する可能性が大きくなっているのです。そうした問題を解決するには、**人口減少・超高齢化の最先進国である日本が、人口が大幅に減少しても豊かな社会を築けることを世界に示すことが不可欠**なのではないでしょうか。

また、将来人口推計から明らかなように、少なくとも数十年間は人口減少が続きます。そのため、今の服を着続けようとするなら、ほぼ唯一の選択肢として今後暫くは毎年数十万人という移民を海外から受け入れる必要があります。しかし、今もなお十分に国際化しているとは言い難い日本が大量の外国人を問題なく受け入れることができるかと言えば、困難だということは想像に難くないでしょう。

では、「体に服を合わせる人口減少対策」とはどのようなことでしょうか。一言で言えば、「**人口が大幅に減少し高齢化が進行しても対応できる社会の仕組み作り**」です。具体的には、人口が大幅に減少する以上、現在の様々な行政サービスやインフラ等はそうした人口減少を見越して縮小する必要があります。つまり、**何でも行政に頼るのではなく、近所や地域で解決できることは解決する、住宅地や市街地を適切に縮小することで、道路、上下水道、電気等のインフラの効率化を図る等の政策や仕組みの実行**です。縮小と言うとマイナスイメージばかりのように聞こえますが、それは**環境に優しい社会に**

近づくことを意味します。また、人口増加が続いていた頃は、不足する住宅地を確保するために山や崖の近く、川沿いや海岸沿いという、自然災害に合う可能性が決して低いとは言えない場所にも家を積極的に建ててきました。しかし人口減少が進めば、そうした場所に住む必然性は小さくなります。つまり、**災害に真に強い社会の実現も可能になる**のです。

人口減少・超高齢化社会の到来で特に問題視されるのは、介護、医療、格差・貧困対策等の社会保障制度の持続性です。確かに、現在の医療保険、年金や介護制度等をそのまま維持することは難しいでしょう。しかし、戦後の歴史を振り返ってみれば、**社会保障制度や様々な行政サービスが充実したことにより、地域や社会でお互いに助け合うことが少なくなり、その結果、近所・地域のつながりやコミュニティそのものが弱体化してしまいました**。今後は、様々なライフステージで困ったことがあれば近所や地域でお互いに助け合うことが当たり前の社会を再び築くことにより、出来る限り行政サービスに依存しないようにすることが不可欠です。言う程簡単ではないかもしれませんが、地域の絆やコミュニティの再構築、そして「健康で心豊かな」社会の復元のためにも必要なことだと思います。

何かと注目されることが多い小泉進次郎氏が先日「人口が減ったって、やっていけるという自信が大切。将来に悲観する1億2千万人より将来に自信と楽観を持つ6千万人のほうが強い。いつか人口が下げ止まるときがきて、そこから力強い成長がある。人口減少を強みに変えよう」と、ある会合で訴えたそうですが、私も基本的に同感です。

これまでの考えや仕組みに囚われ「服に体を合わせる」人口減少対策を進める限り、問題は解決せず将来に悲観せざるを得ないでしょう。新たな発想で人口減少を強みに変える「体に合った服を作る」人口減少対策を打ち出し実行することこそが、今の日本社会が将来への自信や楽観を取り戻すには必要だと考えます。政治家の端くれとして、そうした政治の役割の一端を少しでも担うことができるよう、引き続き努力する所存です。

お読み下さりありがとうございます。『すずしん』に関するお問い合わせは…

静岡県議会議員すずきさとる事務所 〒422-8041 静岡市駿河区中田1-11-19
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716 E-mail: mail@suzukisatoru.net
開所時間: 月曜日～金曜日(休祝日を除く) 9時～15時 ※南幹線沿いにあります!



地元根差した事務所を目指しています。県政や県議会について話を聞きたい、どこに相談していいのわからないという方、遠慮なくご連絡下さい! すずきさとる

すずきさとるの
すずしんラジオ

毎月第2・4金曜日
午後6時30分より
FM・Hi!で放送中

76.9
FM・Hi!